

資料①：平成 26 年度 第 2 回会議の議事録

平成 27 年 3 月

南城市

1. 無償実験の運行状況について

委員	事務局
<p>登録者の二重アカウントの内訳と、利用者数の計上方法を教えてほしい。</p>	<p>登録者は個人と団体で申し込んだ方がおり、個人で申し込んではいませんが、別途団体の代表が申し込んだ場合に二重登録となっている。3月精査した時は100人強が二重登録となっていた。利用者数は往復ではなく1回の片道利用を1回の利用としてカウントしている。</p>

2. 無償実験の評価について

委員	事務局
<p>観光客アンケートで年齢、男女別など属性を聞かなかつた理由を聞かせてほしい。また、サンプル数5という調査結果があるが、これはどのように捉えればよいか。</p>	<p>調査票をA4用紙1枚に納めるため簡易なアンケートにしている。他の項目との優先順位から今回の調査については把握していない。また、サンプル数5の調査結果は参考値として認識している。</p>
<p>高齢者の外出を支援するという趣旨はよいと思う。既存の路線バスが走っていない地域の人々を外へ向けるような、バスとデマンドバスの相互作用について、本格実施までに検討してほしい。</p>	<p>南城市ではユインチホテル南城の近くに土地を所有し公共駐車場の整備を進めている。市では南部東道路とこの駐車場を核とした交通体系の再編を検討している。</p>
<p>アンケート調査結果より、観光客に事前に知らせることで南城市の回遊向上の可能性が把握されているが、今後、観光客への周知は何か計画しているのか。</p>	<p>観光客への周知については、空港、県外の旅行代理店などでの情報発信を検討している。</p>
<p>「観光おまかせなんじい」は有償実験で行わないのか。</p>	<p>ドア to ドアのおでかけなんじいの方を観光客も利用していたため、「観光おまかせなんじい」の有償実験は行わない。</p>
<p>沖縄本島全域で検討すべき課題であるが、那覇空港から観光地までのアクセスなどで、路線バスをどのように活用できるか考えた方がよい。</p>	<p>南城市の交通体系の在り方を踏まえ、空港からのアクセスについてもデマンドとは別に検討したい。</p>

3. 有償実験計画(案)について

委員	事務局
有償実験は平成 27 年 3 月 31 日までとなっているが、次年度の予定はどうなっているのか。一括交付金での実施となると、3 月 31 日まで実施するとなると報告が間に合わないと思われるがどのように対応するのか。	平成 27 年 4 月以降も有償での実験を予定している。今年度の有償実験の一括交付金分は 3 月 20 日までを対象経費として報告する。3 月 21 日から 3 月 31 日は単費で実施する。
平成 27 年もプロポーザルで入札となるのか。	入札方法については現在検討中。
外出支援にむけ、タクシー協会でもできることも検討したい。	本格運行に向け、タクシーと「おでかけなんじい」との連携方策を検討したい。
本格運行に向けての協議会も設けるのか。	地域公共交通会議での対応を考えている。
運行受託者が努力した分、収入が増えるという方法も検討してみてもどうか。	本格運用時には検討したい。